

# アスペクト助詞“着”の教授法に関する試み

張 文青

## アブストラクト

アスペクト助詞“着”は中国語の初中級基礎文法で教えてはいるが、学習者が実際に作文や会話で“着”を使って表現活動を行っている姿はほとんどみられない。アスペクト助詞としての“着”の文法的意味が把握できず、どのように応用すればよいのかわからないというのが実情であろう。“着”の文法的意味や構文の中での役割、日常会話の中で頻繁に使うべきかどうかなど、使用する際の注意点や教授法を提案することが本稿のねらいである。

本稿はまず、第一節で“着”の文法的意味に関して今まで主流であった論調を紹介する。第二節で“着”の文法的意味に関して現在主流となっている先行研究と著者の考えを取り上げる。第三節では“着”はどのような場合に使うのか（すなわち“着”の語用機能）をまとめ、また“在V”と“V着”の違い、動作・状態の持続とのその否定、“着”が用いられない構文を取り上げて分析する。第四、五節では“着”に関する教授法を提案する。

**キーワード：**動作の持続、状態の持続、“着”の語用論、“在V”との違い、持続態の否定

## 1. はじめに

アスペクト助詞“着”の文法的意味に関する先行研究では、動作の“進行相（王力“進行態”『中国漢語語法』、1943）”と“動作の進行及び状態の持続”（呂淑湘『現代漢語八百詞』、1980年）が主流であった。外国人に対する中国語教授法においても“進行相”と“持続相”に分類し、これを主な文法的意味として教えるのが一般的であった。しかし、1980年代に盛んに行われたアスペクト助詞“着”に関する研究では、“着”は動作或いは動作後状態の持続意と唱える論調が主流となり、進行相は主に“（正）在+V……呢”が担うという論説が主流となった。

さらに、木村英樹（1983）は、“着”を二分し、動作後状態の持続を表すのは“着d”、進行中の動作を表すのは“着p”とし、これら二つの“着”は異なる文法的意味を持つとした。そして、それはその否定文の違いからも論証できると主張し、状態持続を表す“着d”は本当のアスペクト助詞ではなく、結果補語に近い文法的意味を持つという論を唱えた。例えば（例文は木村の原文から引用）、

“着p”（動作の進行）：外面正在下雨。⇒ 否定文 \* 外面没正在下雨。

“着d”（状態の持続）：外头堆着柴火。⇒ 否定文 外头没堆着柴火。

筆者は“着”の文法的意味は基本的に持続態アスペクト助詞であると考え、“着”前の動詞の意味によって動作行為の持続意を表せるだけでなく、動作の結果としての状態の持続（残存した様子・状態）を表すこともできると考える。

## 2. “着”の文法的意味

### 2.1 動作持続、状態持続と“着”の特徴

筆者は本節で代表的な先行研究を取り上げ、整理していくことにする。まず劉月華（1983）は、アスペクト助詞“着”の文法的意味を下記の5つにまとめている（例文はすべて原文から引用）。

#### (1) 動作がずっと持続することを表す

东郭先生赶着驴，在路上慢慢地走着。（東郭先生はロバを追って道をゆっくり歩いている。）

姐妹俩坐在山坡上愉快地唱着歌。（姉妹二人は山の斜面に座って楽しく歌を歌っている。）

- (2) 動作が行われた後、物体がある場所に置かれている・状態の残存を表す

桌子上放着收音机。(テーブルにはラジオが置いてある。)

他们都穿着新衣服。(彼等は皆新しい服を着ている。)

- (3) ある持続的動作を表すが、実はこの動作も一種の状態である

正思考着, 突然发现山脚下有一间小房, 门口坐着个老奶奶。(考えている最中、突然山麓に一軒の小屋が目に入り、  
玄関には年老いた老婆が座っていた。)

西门豹弯着腰, 装作很恭敬的样子。(西门豹は腰を曲げ、大変恭しい様子を装っている。)

- (4) 一部の非動作動詞の後ろに“着”を付けると一種の状態を表すことになる

龙梅突然发现玉荣光着一只脚。(龍梅は突然玉栄の片足は素足であることに気付いた。)

鲁迅先生把密信和文稿珍藏着。(魯迅先生は密書と原稿を大切に保存していた。)

- (5) 一部の形容詞の後に“着”を付けることができ、状態の持続を表すことになる

东屋的灯亮着, 西屋的灯关了。(東の部屋の明かりは付いているが、西の部屋の明かりは消えている。)

屋子里亮着灯, 孩子们在灯下学习。(部屋の中に明かりが付いていて、子供達は明かりの下で勉強している。)

劉月華(1983:229)は、“着”は主に動作の持続状態を表しているが、多くの場合ある物体の居場所やその状態を説明、または描写する。すなわち、“着”の役割は描写であると述べている。

また、陸俊明(1999)や金立鑫(2004)は“着”の文法的意味を基本的に“動作或いは状態の持続”であると論じ、動作の持続は更に二つの状況に分けることができるという。

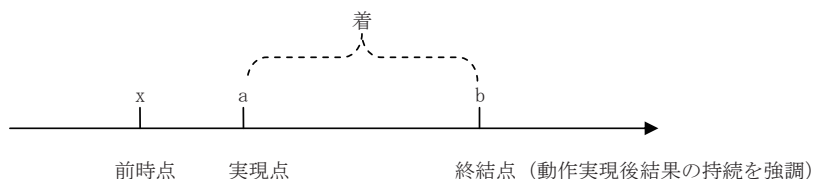
(1) 動作の過程における動作の持続を表す。例えば、“他们不停地吵着嚷着(彼らは絶えず口論し、騒いでいる。)”

(2) 動作が繰り返し進行する様態を表す。例えば、“他一直在地上打着滚儿(彼はずっと地面をごろごろ転がっている。)”

また、陸・金は状態の持続も二つに分けることができるという。(1) ある姿勢を保っている状態を表す。例えば、“你端着盆子干什么?(お盆を持って何をしているの?)”(2) 動作後ある状態の持続を表す。例えば、“树下放着一张藤椅(木の下には一脚の籐椅子を置いてある。)”

石毓智(1992:191)の「論現代漢語の“体”範疇」では、“着”は動作の一定時間内での持続を表し、“着”を用いる動詞は必ず持続性のある動詞でなければならないと述べ、“着”の時間軸におけるイメージを図2.1-1のように示している。

図 2.1-1 “着”の時間軸とその特徴



石は“着”は動作の實現点・開始点(a)から動作の終結点(b)との間の持続状態を表し、動作の持続状態を強調する語用機能を持つアスペクト助詞であると述べている。著者は上記先行研究を活かし、“着”を教授する際に上記図を用いて学習者に説明することになっている。

## 2.2 “着”と動詞との相性

費春元（1992）や呂翼平（2000）、陳平（1988）など多くの先行研究は、動作は行われる時間の差や様態が様々であることから、動詞とアスペクト助詞“着、了、过”との相性を分析している。著者は先行研究に習って、動詞と“着”との相性を更に詳しく分析することを試み、下記表のように整理した。

表 2.2-1 動詞の分類と“着”との相性

第一類：瞬間動詞、非持続性 (-持続)、“着”は用いられない	死、倒、塌、摔、扔、断、熄、灭、来、去、出发、开始、 结束、闭幕、出来、进去、毕业、结婚
第二類：属性や関係を表す動詞 (+持続)、“着”は用いられない	属于、等于、是、姓、适合、符合、作为、服从、好像、值得、当作、当成、看作
第三類：心理状態或いは生理状態、認知を表す動詞、(+持続)、“着”は用いられない	喜欢、讨厌、高兴、知道、明白、懂得、认为、相信、重视、 需要、佩服、满意、尊敬、放心、愿意、焦虑、惊讶、害怕、 失望、轻视、爱戴、拥护
第四類：瞬間動詞、持続性動詞、 (±持続)、“着”が用いられる	看、听、说、想、走、跑、吃、喝、写、记、弹、学习、 商量、研究、讨论、批判
第五類：持続時間が比較的長い、持続性が強い、(+持続)、“着”がよく用いられる	坐、站、躺、蹲、趴、卧、立、顶、放、挂、钉、捆、搁、 盖、叠、垫、塞、插、举、贴、端、装、存、堆、架、晾、 晒、悬挂、堆积、搁置、摆放
第六類：持続性がかかなり強い、 (++持続)、常に“着”を用いる	向、对、朝、过、随、意味、标志、寓意、把握、包含、 呈现、惦记、挂念、盼望、期待、回忆、琢磨、寻思、考虑、 思考、体会、想、关心

第一類の動詞は、開始と終了が瞬間的で、実現点と終結点は重なると見られ、動作の持続性がないか、一般的に繰り返し不能なため（例えば、“毕业、结婚（卒業、結婚）”、“着”は用いられない。

第二類の動詞は、持続性のある動詞だが、アスペクト“態”の面においては“着”をつけて持続状態に言及する必要がないため、“着”を使わない。

第三類の動詞は、心理状態や生理状態、認知を表す動詞として持続性を持つが、動作の“態”においては“着”をつけて持続状態を言明する必要がないため、“着”を用いない。

第四類の動作は、瞬間的に終わる場合もあれば、一定時間持続する場合もあるため、“±持続”という特徴を持ち、“着”を用いて動作の持続や動作後状態の持続を表す動詞が多い。このグループには心理動詞や動作を表さない静態動詞が多く含まれている。

第五類の動詞は、動作の開始と終結点との間に一般的に相当長い時間が費やされ、持続という特徴が比較的強い動詞グループである。このグループに属するのは相対的に静止状態を表す身体動作や姿態動詞（中国語では人体の姿態は静態として認識し、身体動作が終わった後の結果状態は静態と認識する）である。また、第五類の動詞を木村（1983）は“+付着”性動詞と称し、受事者は動作完結後ある特定の場所に付着或いは残存している状態を表すと述べている。陳剛（1980）<sup>1</sup> はこのグループの動詞は存現文によく使われ、「動作の結果の状態」を表し、「据え付ける（安置）」という意味があるという。

<sup>1</sup> 荒川清秀（2011）「“着”はどんな場合に使うか」P.6より二次引用。

第六類の動詞は、明確な終結点がなく、長い持続性を持つ傾向があり、常に“着”を用いる。また一部の心理動詞はその持続性を強調する必要があるため、“着”を用いる。

上記“着”と動詞との相性表は、“着”の教授プロセスにおいて有用である。中上級レベルで比較しながら、場面や会話のシーンを設定したり、或いは作文で用いたりする際に有効だと考える。

### 2.3 現状説明・弁明用の“着”

費春元(1992)や荒川清秀(2011)、陳淑梅(1997)は“着”の“進行態”に関する文法的意味は、話者が置かれている状況から抜け出せないという状況を説明し、新しい依頼に応じられないことを弁明する際に用いられると論じ、現状説明に用いる“着”の“進行意”は多くの場合、特定の条件に置かれる際に用いられると述べている。

“着”は口語の中でふつう状況描写によく使われ、“進行態”としての文法的意味は、話者が置かれている状況を説明・弁明する際にのみ使われる。また、なぜ話者の要求や依頼に応じられないのかという質問や現在の状況を尋ねる質問に答える際にも用いられている。相手の現状確認の質問がなければ、話者は自分は何をしているのかを表す際に“主体+在+V”を使用し、出来事の全体を叙述するが、“主体+V+着(主体は～をしているけど……)”という言い方はしない。例えば、

問1: 小李呢?(李さんは?)	問2: 他怎么还不来?(どうしてまた来ないの?)
答1: 他 <u>在</u> 里屋呢。(彼は奥の部屋にいる。)	答2: 他接 <u>着</u> 电话呢。(彼は電話中だけど…)

問1: 妈妈你 <u>在</u> 干什么?(お母さんは何しているの?)	問2: 妈妈, 你马上来一下儿。 (お母さんすぐに来て。)
答1: 我 <u>在</u> 给你准备明天的盒饭呢。(私は貴方の明日の弁当を作っているのよ。)	答2: 我手上蘸 <u>着</u> 很多面呢。(私の手にはたくさんのフラワーが付いてるけど……。)

例文のように、“在”は出来事全体の進行状況を表すのに対して、“着”は動作開始後の持続・残存状況を描写し、ひとまとまりの動作の開始や変化を表さず、また出来事全体の時間的限界もつけず、動作開始後の持続状態だけを重点としている。こうした“着”の特徴に基づき、話者が置かれている具体的状況を説明・弁明する際に使われることになる。

“V 着”は、使役文や弁明などに使われるケースが多いが、口語の中では単文として唐突で不自然な感じがするため、“着”は頻繁に使われることがなく、場面描写や上下文脈の中に埋め込まれる場合に自然な中国語となる。例えば、単文として唐突で不自然な言い方：我们走着去。(私達は歩いていく。)

自然な言い方：質問：你们怎么去呀? (どうやって行くの?)

質問に対する受け答え：我们走着去 (私達は歩いていくの)。

理由説明：那儿路窄，车开不进去，我们走着去。

(そこの道路が狭く、車が入らないので、私達は歩いて行く。)

要求、依頼：你们先开着车去吧，我们走着去。(貴方達は先に車で行って。私達は歩いて行くから。)

比較、対比：走着去不行，得坐车去。(歩いて行くのは無理だ、車で行かなければならない。)

例文のように、一連の会話の中では“V 着”が組み込まれた言い方が自然である。“V 着”は動作や状態の持続意を表すが、日本語の持続意を表す「～している」は使用制限が少ないのに対し、中国語の持続意を表す“着”は使用制限が多いため、無暗に使うことはできない。

相手は今何をしているかを尋ねるということは、発話時に出来事全体図を尋ねるということであって、動作開始後の持続状況を問題にしないのがふつうである。例えば、“你在听我说话吗?(私の話を聞いているのか?)”、“孩子们在准备自己的东西吗?(子供達は自分のものを準備しているのか?)”のように、事柄の全体状況を尋ねる際には“在 V～吗?”を

用いるのである。普段コミュニケーションを交わす口語の中で“在V～吗?”を使用する頻度が“V着”よりかなり高いのはこのためである。“在V”と“V着”の違いを習得させるために、大量の演習を通して、練習→説明・訂正→習得というプロセスを経て徐々に理解し、掌握させていくことが重要だと考える。

## 2.4 “V1着V2”の文法的意味

“V着”を使用する際に、“V1着V2”構文がよく使われている。呂淑湘(『現代中国語用法辞典』、1983)は“着”は二つの動作が同時に進行し、連動するありさまを表述する連動文を構成することができると述べ、さらに“V1着+V2”という連動式は二つの動作のありかたを描写することができるという。朱德熙(1982)は、“V1着V2”という二つの動作はそれぞれ相伴って起こる動作を示すが、重点はV2にあり、V1はV2の様態を表すと論じている。V2の付随的動作・状態として用いられるのは、状態持続を表す静態動詞や動作持続を表す動態動詞だけではなく、状態持続を表す一部の形容詞(“adj.着”という文型になる)もある。著者は、呂・朱のいうV1とV2の関係を下記3点にまとめる。

### (1) V1はV2の手段・方式である

V1はV2の手段・方式であり、V2はV1の目的である。V2は浮き彫りにされた前景動作として表れ、V1は動作の背景<sup>2</sup>として動作のありかたや方式、手段を描き出す役割を担う。例えば、

面条店里有几个人站着吃荞麦面(ラーメン屋で何人かは立ってそばを食べている)。

我们想跑着去教室(私たちは走って教室に行きたい)。

事件の進行や展開としての主な動作(前景動作)はどのように行われているのか、その方式や手段、様子を描き出すのは“V1着”である。“V1着”には主要動作V2が行われる際の様子を引き立たせる修辞効果を果たす役割がある。

### (2) V1とV2は一種の手段と目的の関係にある

V1/adj.は、動作の目的であるV2を実現するための方式ではなく、一種の様子・状態を描く機能を持つ。例えば、那人就是憋着不肯说出来(あの人は我慢して言おうとしないだ)。

有老人在场时他也是抢着说话(彼は年配の方が居る時も競って発言する)。

人们都忙着备年货,街上车水马龙,好不热闹(人々はお正月の買い物で忙しく、町中人々が行き交い、大変賑やかだ)。

例文のようにV1/adj.とV2は相伴って起こる動作ではなく、V1はV2の状態・様子を描写している。

### (3) V1進行中にV2が現れる

V1が行われている間に、いつの間にかV2という動作・行為・考え方・自然界の変化が発生し、構文の重点がV1からV2に遷るので、V2が叙述の焦点となる。例えば、

工人们说着说着就吵了起来(労働者達は話しているうちに口論になった)。

他们聊着聊着就到了会场(彼らは話しているうちに会場についた)。

走着走着天就黑了(歩いているうちに空が暗くなってきた)。

上記例文からも“V1”は“V2”の状態・様態を表す、表述の焦点V2の付随的動作・状態として用いていることが分かる。

## 2.5 “着”の使用頻度と文法的意味のまとめ

劉寧生(1985)は“着”の使用頻度に関して統計を取り、結果として、文学作品に使われる“着”の使用頻度は口語や

<sup>2</sup> 動作の背景というのは、動作の前景とは相対的な概念である。動作の前景というのは、文の中で直接事件や事柄の進展、人物の活動、どんなことが発生したのかを叙述する部分である。動作の背景というのは事件や事柄を引き立たせ、前景動作に伴う動作の手段・方式・状況・様子を述べる部分である。

政治論文に使われる頻度よりかなり高いことを突き止めている。なぜなら、文学作品の中には情状描写が多いが、自然な口語には景物描写や情状の模倣が少ないからだという。また、自分が置かれている状況を説明し、新しい依頼に応じられないことを弁明する場面や必要性が少ないため、口語では“着”の使用頻度が低いと説明している<sup>3</sup>。

本稿の最後に、著者は“着”の文法的意味や語用機能を踏まえ、どのように教えればよいかを提案するために、今一度“着”の文法的意味を下記2点にまとめておく。

(1) 動作の持続—動作実現・開始後の持続状態を表す

“着”は持続性動詞に付き、動作が時間軸上で展開した状態、いわゆる動作実現後・開始後、均質的、線状的に展開する姿や様態を描写するのに使われる。また話し言葉では、主に自分が置かれた状況では相手の要求・依頼に応じられないことを弁明する場合や“なぜ～できないのか?”という状況確認の質問に対しての受け答えに使われる。

(2) 状態の持続—動作後、動作の結果として物体の残存状態を表す

“着”の状態持続意に基づき、“着”は文学作品の場面描写・状態描写(存現文)によく用いられる。この構文に使われる動詞は静態動詞や身体動詞のほか、3.1節で使われるような抽象化された動詞もある。

上記文法的意味を踏まえ、“着”の語用機能として、使役文(要求や命令)、動作持続構文や状態持続構文、動作の方式・手段・様子・目的を表す“V1着V2”などといった7つの構文を次の節で詳しく分析することにする。

### 3. “着”の語用機能—“着”を用いる7つの構文

本節では“着”の文法的意味に基づいて、どのような場面や場合で使うのか。“着”に関する教授法を提案するために、その語用機能を取り上げて分析する。

(1) 使役文—命令や要求、注意に用いる“着”

費春元(1992)は、“着”の語用論に関し、命令文の“看着、听着、穿着(見なさい、聞きなさい、着なさい)”はどう考えても“進行”や“持続”を表すのではなく、命令や注意、持続態の要求などを意味するといっている。しかし著者は、命令文や注意文に使われる“着”もある動作や状態を保って欲しい際に使われる言い方であり、やはり動作や状態の持続に対する要望であると認識している。例えば、

老二你听着,我再也想不上你的当了(二男よ、よく聞いておけよ、もう二度とおまえには騙されないからな)。

黑灯瞎火的,走夜路时小心着点儿(真っ暗闇だから、夜道を歩く時は気をつけてよ)。

看着!看着!切菜不看着,切了手就晚了(ちゃんと見なさい!野菜を切る時に見ないで、手を切ったらもう後の祭りよ)。

“単音節動詞+着”構文は、ある動作・状態・体勢を保って欲しい際に使われる命令文(要求、注意喚起)にのみ使われる。用いられる動詞は身体動詞が多く、また制御可能な動詞でなければならない。

(2) 状態の持続を描写する

状態持続構文は“主体+場所+状態”という構造で、ある場所に現れる状態や状況を描写する文である。この構文は一般的に動作の背景描写に使われ、事柄の中心である前景動作の背景イメージを描き、前景動作を一層引き立たせる役割を果たす。例えば、

在波光粼粼的海面上,航行着一艘白色客轮(波が耀く海に白い客船が進んでいる)。

外面下着暴雨,施工队却在抢修公路(外は大雨だが、工事チームは道路を応急舗装している)。

<sup>3</sup> 費春元(1992)「説“着”」P.22より二次引用。



### (3) 存現文— 場面・様子の描写

この構文は静態的持続を表し、動作の背景描写に使われ、叙述の中心である前景動作の背景描写となり、生き生きとした風景や場面を描写することを通じて前景動作を一層引き立たせる修辭的効果を果たす。例えば、

屋檐下卧着一只毛茸茸的小猫（屋根の下で毛のフワフワした子猫が横になっている）。

门口的桌子上放着一束嫩黄色的山花（玄関の台の上に薄黄色の野の花が置いてある）。

この“主体+場所+持続性の強い動詞+着+0”構文は、動作実現後その残存状態に変化がないことを示す静態的状态を表現し、よく存現文に使われる。

### (4) 動作の手段・方式を表す

二つの動作が連動する“V1 着 V2”という構文では、前景動作 V2 の背景として V1 は抽象的な手段・方式を表す。張黎(2011)は、この動作の状態・方式を具体状態句と抽象方式句に分けることができるといっている。具体状態句に用いる動詞としては具体的に動作を観察できる動作性の強い動詞を用いるが、抽象方式句に使われる動詞は具体的動作が現れない動作性の弱い動詞、もしくは全く動作性のない抽象動詞・状態動詞が使われる。

例えば、

具体状態句	抽象方式句
孩子们跑着下了山。 (子供達は走って山から下りた。)	大儿子仰仗着父亲的权势爬上去了。 (長男は親の力でのぼりつめた。)
我们站着练习发音。 (私達は立って発音練習している。)	大家都朝着一个方向努力。 (皆は同じ方向に向かって努力している。)

この“主体+V1 (手段・方式) +着+V2 (前景動作) +0”構文の本質は、V2 を実現するために V1 という方式・手段を取り、“背景情報”を呈示するところにある。

### (5) 副次的・付随的状态を表す構文

この構文は、一般的に V1 進行中にいつの間にか V2 という動作・行為・状態に変化したような場合、V2 への変化に焦点を当てる構文である。例えば、

他们走着走着就迷了路（彼らは歩いているうちに道に迷ってしまった）。

他说着说着就泄漏了秘密（彼は喋っているうちに秘密を暴露した）。

この構文は、“V1 着 V2 着就～”という形をよく取り、前の動作から後の動作への結果や状態の変化や新展開に描写の重点を置く表現である。

### (6) 状態評価を表す構文

この構文は一般的に複合文の形を取り、前文と後文が逆接関係に立つことが多い。前文は主体の状態を表し、後文はこうした状態に対する話者の主観的評価を表す。例えば、

巧克力吃着好吃，可吃多了要胖的（チョコレートは美味しいが、食べ過ぎると太るよ）。

这件大衣看着挺好，但是穿在身上硬梆梆的（このコートは外観はよいが、着ると重く感じる）。

この構文では、一般的に後文は前文の動作や様子を否定し、相補的だが逆の意味、対立的内容を並べ、叙述の重点は後の文にある。

#### (7) 従属節

“V+着+0, ~”のように“V+着”が使われるのは前節（従属節）で、いわゆる主節・主要動作の描写として使われ、前の動作が持続しながら、次ぎの動作に展開する場面を描写する際に多く用いられる。さらに、“ちょうど～をしているところ”という意味の“正（在）+V+着”という形もよく見られる。例えば、

我正揉着面，小桃跑了进来（ちょうど小麦をこねている時、桃ちゃんが走って入ってきた）。

我们正说着你的事儿呢，你看你就来了（ちょうど貴方のことを話している時に、貴方が来た）。

こうした構文は前の動作が続く中、次ぎの動作や場面に移り変わることに叙述の重点を置いており、事件や事柄の展開と変化を同一場面で生き生きと修辞する。

“V 着”を用いる 7 つの語用機能を取り上げたが、学習者に“V 着”を用いる構文の使用状況や構文の中での役割を説明するために、次節で“V 着”の語句における分布や語用機能を表にまとめることにする。

### 4. “V 着”に関する教授法

#### 4.1 “V 着”の分布と語用機能表

この節では、“V 着”の教授法をめぐって学習者に分かりやすく説明するために、その語用分布や語用機能を表にまとめる。進行態の“在 V”との違いや“V 着”の否定、“V 着”が用いられない構文の教授法を提案する。では、まず“V 着”の分布及び語用機能表を下記の通りにまとめる。

4.1-1 “V 着”の分布及び語用機能表

分布及び語用機能		V 着	V1/adj. 着 V2	V 着 V 着（就）～	V 着～，対比的後文
る 景に 動作 対す の 前	述語 （命令、要求、弁明）	您坐着，别忙了。 您点的菜，我们正做着呢，您稍等。			
	連体修飾語 （説明、描写）	墙上挂着的画儿是老李给的。 数着的钱是借的。			
動作 の 背景 に 対 す る 描 写 ・ 説 明	連用修飾語 状況、方式、手段を表す		我走着去打工。 刘姐高着声儿叫客人先进屋儿。	他哭着哭着就睡着了。 他们聊着聊着就争论了起来。	
	従属節（連続関係の等位復文）	我们正吃着饭，突然断电了。 孩子呀，拉扯着就大了。			
な 特 殊 成 分	複文の前文 （比較、対比）				吃着好吃，可是样子很难看呀。 看着行，其实不中用。



肖奚強（2004：482）は200万字の資料研究を経て、方式・手段・状況描写・従属節としての“V着”は背景描写の語句で使われる場合が74.8%と最も多く、動作の前景（“述語動詞+着”など）として使われるのは18.3%、動詞句が連体修飾語として使われるのは3.9%、“（正）在+着／在V着”は2.9%を占めるという統計をつくり、アスペクト助詞“着”の背景描写としての語用機能の高さを具体的数値で示している。

#### 4.2 “在V”と“V着”の語用機能の違い

2.3節で“在V”と“V着”の違いを取り上げたが、木村（1982）は、“V着”は「今まさに現実に立ち現われている持続的な姿」というような、「動作・作用のありかた・姿を問題にすることを背景として用いられる。動作の何たるかが問われているような状況における発話・質問に“在V+0”が用いられる」と述べている。

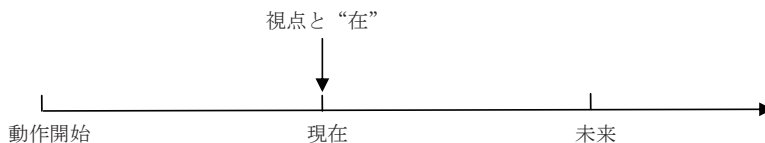
吳麗君（2005）は“在”構文は説明的で、“着”構文は描写的であると述べ、“在”も“進行”を表す“在1”（“春水，你在1干什么？ 春水さん、何をしているの？”）と、状態持続を表す“在2”（“那钟声震荡着大地，好像在2告诫人们不要忘记沉痛的过去。あの鐘の音は大地で響き渡り、まるで人々に痛々しい過去が忘れ去られないようにと訴えているようである。”）があるという。

呉によれば、“在”構文は出来事と時間軸の間に垂直の方向関係を設けるためのものであり、出来事の進展を時間軸上で一点に集まったこととして判断させ、これにより出来事に対する肯定的判断を完成させるという。一方、“着”構文は出来事と時間軸の関係を放棄し、出来事が展開中の状態だけを表し、時間軸とは無関係である。“着”の持続性は時間軸上の展開性として表され、多くの場合は“在”と“着”は入れ替えることができず、それぞれの表現機能を有し、境界をはっきりしていると述べている。

荒川（2010）によると、“着”は決して現時点で何をしているかを伝えようとするものではなく、今現在自分が置かれている状況から抜け出せないという状況を説明し、新しい依頼に応じられないことを弁明する文に使われる、すなわち、ある依頼を断るための“着”といっても過言ではないと論じている。張黎・佐藤晴彦（1999：83）は“着”は中国語の“進行態”ではなく、動作の状態を表すマークであると主張する。中国語における進行態のマークは“在”であると述べ、“着”の特徴は動作の連続性・均質性と不変性にある。“在”の特徴は動作性・現時点性と可変性にあるという。劉月華（1983：230）は、時には“在”、“着”、“……呢”<sup>4</sup>三者が連用され、動作の進行意を表すことになるが、この場合も動作・状態・様子を描写する意味は非常に強く、“着”の語用機能は描写であることを強調している。

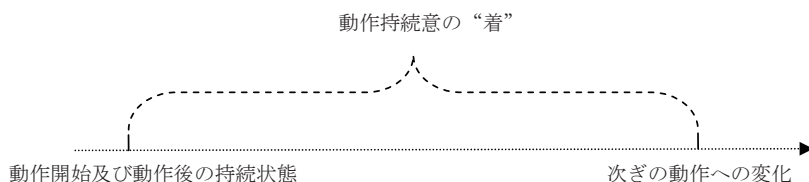
筆者は“進行態”と“持続態”を教える際に、“貴方は今何しているの？ 今授業中ですか？ 彼女は宿題を書いていますか？”というような現時点の出来事を尋ねる発話には、“你在干什么呢？ 你们在上课吗？ 她在写作业吗？”と“在”構文を用いなければならないと強調し、“在”と“着”の時間軸における範疇の違いを下記図のように示している。

4.2-1 “在”の時間軸における範疇



<sup>4</sup> “在”は発話時を表し、“…呢”はその状態化した動作が発生した時刻を表す。

#### 4.2-2 “着”（動作持続意）の時間軸における範疇



#### 4.2-3 “着”（状態持続意）の時間軸における範疇



動作開始後の持続状態を時間軸上で均質的・連続的展開として表すのは“V 着”である。“V 着”は主体の状態を描写する。一方、“在”は動作の進行を表し、動作の進行状況を正面から肯定的に叙述する。

著者は“着”は一つの動作が不変の状態にある表現であると考え、決して動作の時間性に重点を置くのではなく、動作の状態を取り上げて描写する役割を果たすと考え、教える時にこの特徴を強調し、“V 着”と“在 V”の違いを比較しながら、2.3 節で取り上げた例文を使って練習させる方法を提案する。

### 4.3 動作及び状態の持続とその否定

“在 V”と“V 着”を用いる肯定文と疑問文の教授法を提案したが、次ぎは持続態の否定文の考え方や教え方を紹介したい。持続態の否定に関しては『漢語水平等級標準与語法大綱』や王還が編著した『対外漢語教学語法大綱』、劉月華（1983：232）、興水優（2009：360）では持続態の否定には動詞の前に“没（有）”を置き、動詞後の助詞“着”を保留すると述べている。

来思平、相原茂（1993：109）は、動作持続の“着”にしろ、状態残存の“着”にしろ、“着”は動作のありさまや状態を肯定的に描くものであり、これを否定するということは、少なくとも第一発話として普通行われないと論じている。

木村英樹（1983、1991）は、“他说着话呢（彼は喋っている）。”における“着”は動作が持続的に行われ、線状的な姿において実現していることを示す“着”であり、“墙上挂着画儿（壁に絵を掛けている）”における“着”は動作が実現した後の結果状態を示すという。前者の「说着」という動作の持続を表す“着”は連体修飾語“的”（\*那儿喝着的人）の前に現れにくく、結果的状态の存続を表す“着”（墙上挂着的画儿）のほうは“的”が現れてもよい、と状態残存の“着”は結果補語的な文法意味を持つと主張し、動作持続意の否定ならば、“没（有）+V”を使い、状態持続意の否定ならば“没（有）V+着”を用いるべきと論じている。

高順全（2004）は「進行態、持続態の否定と関連する問題」の中で、大量の例文や分析でもって動作の持続を否定するならば、動詞の前に“没（有）”を置き、“着”を用いない；状態持続の否定ならば、動詞の前に“没（有）”を置き、“着”を保留するといっている。また高（2004：475）は中国語の進行態や持続態には否定形式がない、あるいは直接的な、専用否定形式を言わなくてよいと主張している。なぜなら、語用論からみれば、進行態と持続態は動作或いは状態に対し正面から叙述、或いは描写するものであり、その否定形式を使用する可能性は小さい。さらに、“在 V”と“V 着”

の前提は動作の開始や実現を表す“V了”である。“V了”の否定は“没(有)V”であるため、“没(有)V”は“在V”の否定に見てもよいし、“V着”の否定と見てもよいと論じている。

筆者は来、相原、木村、高の論点に賛同し、動作進行態の“在”は動作の開始、しかも発話時点に進行している状況を表すのに使われ、“着”は動作開始・実現の後の均質的、線状的持続を表すと考える。動作の持続状態の否定は動作開始後均質的な展開中にある一点の動作を否定するのではなく、動作が開始・実現されたかどうかに否定の焦点を当てるべきであり、動作の持続態を否定するには“没(有)+V”になると考える。一方、動作後ある結果として残存している様子を否定する文は、“没(有)V+着”という形になると考える。

また下記例文の答えのように、状態持続の確認質問に対し、等位複文の後文に対比意の文が続くと自然な表現になる。ある状態が持続しているかどうかの質問に対し、答えとして“不是～”を使って正面から内容や性質などを否定する場合も多いと考え、教授する際に下記例文を使って説明している。

例えば、

質 問	墙上挂着画吗？（壁に絵が掛かっていますか？）	答え 1	墙上没挂着画儿，挂的是照片（壁に絵は掛っていない、掛っているのは写真である。）
		答え 2	不是，挂着的不是画儿，是照片。（いいえ、掛かっているのは絵ではなく、写真である。）
質 問	桌上盖着红色的桌布吗？（テーブルには赤いテーブルカバーをかけているか？）	答え 1	桌上没盖着桌布，什么都没有（テーブルにはテーブルカバーがかけてない、何もない。）
		答え 2	桌上不是桌布，是彩灯反的红光。（それはテーブルカバーじゃない。反射したネオンの赤い明かりだ。）

“外面在下雨吗？外面还在下雨吗？（外は雨降っていますか。外はまだ雨が降っていますか。）”といった質問は「降る」という動作・現象が現時点で起こっているかどうかに対する確認であるため、問題の視点は時間軸の現時点の一点にあるゆえ、“在V～吗？”を使っている。発話時点で雨が降っていないのであれば、“没有+V”で動作・現象そのものを否定すればよい。動作開始後は、時間軸の上に均質的に展開しているある一点だけを否定することはできない。従って、動作の持続に対する否定形としては“没有+V+着”は不自然であることを学習者に繰り返し説いている。

#### 4.4 “着”が用いられない構文

この小節では、“着”が用いられない構文を如何に学習者に教えるかを提案する。まず、6 パータンの“着”が用いられない構文を取り上げて分析する。

##### (1) 結果補語や完了・完結意の語句には“着”を使えない

“着”は動作が持続的に行われている様子や動作が開始・実現した後の結果状態が残存していることを表すため、すでに動作の完了・完結・結果が得られた語句や構文には用いられない。V+V（例えば“说明、看到”）、V+adj.（例えば“剪短、铺平”）のような結果補語が付く二文字の動詞には“着”は用いられない。

例えば、

- \* 姐妹俩弹得这么成功证明着→(证明了)他们付出的汗水和努力。
- \* 拉长着→(拉长了)的胶带源源不断地从机器里涌出来。

(2) 具体的な時間の長さや回数を表す語句には用いられない

話者が動作・状態の持続に重点を置くならば、動作の開始・終了及び動作が行われた時間の長さや回数には関心を払わない。従って、“着”は具体的な時間の長さや回数を表す語句と一緒に使うことはできない。

例えば、

- \* 他用功地写着→(写了)一上午。
- \* 她努力地说着→(说了)两次。

(3) 動作の進行状況を尋くには“着”を使えない

前述したように“在”は動作の進行状況を叙述するが、“着”は動作発生後ずっと持続している状態を描写する。従って、“今何をしているの？まだ～をしているのか？”と質問する場合は“着”は用いられず、“在V～吗？→还在V～吗？”を用いなければならない。

例えば、

东东，你在写作业吗？\*不，我画着画儿。→不，我在画画儿。

\*小王还睡着吗？→小王还在睡觉吗？嗯，还在睡呢。/ 嗯，还睡着呢。

没有，他刚才起来了。/ 不，他已经起来了。

(4) 瞬間動詞や持続性のない動詞、一部の心理動詞、認知性動詞には“着”を使えない

動作が行われる時間的幅がなく、瞬間的に完結する瞬間動詞、或いは一部の認知性動詞や生理動詞のように持続性は持っても動作の持続性に視点を置く必要がない場合、“着”を用いない。

例えば、

- \* 他从心里佩服着→(佩服着)那小伙子。
- \* 孩子知道着→(知道着)父亲会为这事大发雷霆。

しかし、一部の心理動詞は動作の持続性を強調するために“着”を用いることもある。

例えば、

多年来，他一直暗暗地在心里爱着她（長年来彼はずっと心の底から彼女を愛している）。

他从心里恨着那场夺走了她事故（彼は心の底からあの彼女を奪った事故を恨んでいる）。

(5) 動詞の後ろに場所名詞がある場合は“V+在+場所名詞”を使用し、“着”を使えない。

例えば、

- \* 我在东京住着→我住在东京。
- \* 事实在脑子里记着了→事实记在脑子里了。

(6) 様態補語や程度補語がある場合には“着”を使えない

- \* 外面的风刮着很厉害，雨也下着很大 → 外面的风刮得很厉害，雨也下得很大。
- \* 他写着很漂亮的汉字 → 他的汉字写得很漂亮。

上記説明を行った後、下記誤用例を訂正する練習を提案する。

	誤用文	訂正文
1	我们看到着老师就和老师打了招呼。	我们看到了老师就和老师打了招呼。
2	姐姐一直打着一个小时的电话。	姐姐一直打了一个小时的电话。
3	孩子,你在写着作业吗?	孩子,你在写作业吗?
4	我们明白着一个道理。	我们明白了一个道理。
5	我把书在桌子上放着了。	我把书放在桌子上了。
6	他说着很流利的汉语。	他说汉语说得很流利。

## 5. “着”に関する段階別の教授法提案

“V 着”は場面や状況描写に使われるケースが最も多いため、初中級レベルでは存現文を教えた後、動作の手段・方式を表す連用修飾語（中国語：状語）としての“V1 着 V2”を教授し、その後、従属節に使われる“V 着 O, ~ / ~, V 着 O”や“V 着 V 着, 就~”、“V 着+（評価）, ~（対比的後文）”を中上級レベルで教えるのがいいと考える。この節では、段階別の“着”に関する教授法を提案する。

### 5.1 初級段階に命令文—命令や要求、注意に用いる“着”を教授する

初級レベルにおける単音節動詞“看、听、坐、站、拿、带、躺、放（見る、聞く、座る、立つ、手で持つ、もつ、横になる、置いておく）”など身体動詞を学ぶ際、これらの単語に“着”を付けて、クラスメート同士で相手に命令や要求、注意することを練習させ、実際に体を使って“着”を用いる命令文に触れさせ、記憶させることは中上級での学習に役に立つと考える。例えば、

“请○○同学站着。/ 请○○同学坐着。/ ○○同学你看着老师。/ ○○同学请你拿着汉语书。/ ○○同学你读课文, ○○同学请你听着。/ ○○同学你看着○○同学的眼睛, ○○同学你看着○○同学的头发。/ 请大家不要看着黑板说 5 个新单词。”などを言えるように練習させることを提案する。

### 5.2 状態持続構文、場面状況を描写する構文の教え方

初中級レベルでは教室やキャンパスの風景を描写する練習やクラスメート同士の様子の描写、自宅の様子の描写、自然環境の描写に“着”を用いて練習することが“着”の習得に有効であると考えられる。

例えば“下記語句からいくつかを選んで教室や自分の部屋、クラスメートを描写しなさい”という練習方法を提案する。

5.2-1 存現文“V 着”の練習方法に関する提案

教室里	墙上	黑板上	老师的桌子上
放	挂	写	摆
桌子、椅子	电话、电视	问题、作业	杯子、教科书
房间里	书架上	电视机前	墙上

放	摆	放	贴
沙发、书架	CD、杂志	花、照片	地图、油画
帽子	眼镜	T恤衫	头花
戴	戴	穿	戴

### 5.3 動作・状態持続の“V着”の練習方法に関する提案

初中級レベルで場面状況を描写する存現文を教えた後、状態の持続、動作の手段・方式、動作の持続、動作・状態の持続に対する確認という項目で(1)質問、(2)肯定回答、(3)否定回答という三つの構文作りで練習する方法を提案する。

#### 5.3-1 動作・状態持続の“V着”の練習方法に関する提案

	状態の持続	動作の持続	動作の方式・手段	動作・状態の持続に対する確認
質問	桌上放着辞典吗?	他们在聊着天吗?	你怎么看电视?	外面还在下雨吗?
肯定回答	是的, 放着我的词典。	是的, 他们还在聊着。	我躺着看电视。	是的, 外面还在下雨。
否定回答	没有, 桌上没 (不是)  放着词典, (是)放着一本书。	没有, 他们已经走了。	我不是躺着看电视, 我是坐着看。	不, 外面没下雨。

従属節に使われる“V着(0), ~/~, V着(0)”や“V着V着, 就~”、“V着(評価), (対比的後文)~”は下記場面で使う構文を中上級レベルで教えることを提案する。

文型	場面で使える“着”構文の練習
V着(0), ~	聊着天, ~、上着课, ~、打扫着房间, ~、玩儿着(游戏机), ~
~, V着(0)	~, 交流着, ~, 考虑着, ~, 期待着, ~, 盼望着, ~, 回忆着, ~, 关心着
V着V着, 就~	说着说着就~, 想着想着就~, 写着写着就~, 学着学着就~
V着(評価), (対比的後文)~	看着~, 其实~, 吃着~, 实际上, 听着~, 但是~, 穿着~, 不过~



上記場面で、“着”を用いて表現することができれば、中国語の表現力は一段と豊かになるに違いない。学習者に教える際に、上記4つ文型の言い方を記憶させ、語感を得るためによく使われる言い方を数フレーズ暗記させる方法を提案する。

総括して言えば、初級レベルでは命令文を言えるようにクラスメート同士で練習させることを提案する。中級レベルでは教室や自宅、クラスメートの様子を描写する力を養成し、また同様の質問を発する力と、それに肯定的回答、否定的回答をする力を培うとよい。中級レベルでは“V1 着 V2”を使って大学やアルバイト先への行き方を言えるように練習させることも日常会話で“着”を活用させる方法の一つと考える。中上級クラスでは風景の描写や“V 着 V 着就へ”、状態評価構文、従属節の複文を練習させることを提案する。

## 6. 終わりに

“着”は事柄や場面、動作に対する描写に最大の特徴があるため、話し言葉では頻繁に使われない。アスペクト助詞“着”は、(1) 命令文、(2) 自分が置かれている状況を説明し、弁明する文、(3) 目的となる動作を実現するための方式や手段・様子を描写する構文、(4) 状態や場面の持続に関する描写に用いる存現文、(5) 二つの連動的動作が知らず知らずのうちに次ぎの状態や動作へ変化する文に使われる。

“我们在上课（私達は授業中だ）。”と“我们上着课呢（私達は授業中だけど……）。”を比較しながら、事柄の進行状況を尋ねる際やその答えに、“主体+在+V+O”という構文を使うように叩き込む必要があると考える。また、動作の持続に対する否定は“着”を使わず、“没（有）V”となるが、状態の持続を否定する文では“没（有）+V+着”となることを、教える際に繰り返し強調する必要があると考える。さらに、状況描写や場面描写存現文に“着”を使うことで表現力は豊かになることを学習者に強調し、中上級段階において、特に作文などで積極的に“着”を使うよう提案したい。

## 参考文献

### 【中国語】

- 呂叔湘、朱德熙(1952)『语法修辞讲话』中国青年出版社
- 朱德熙(1982)『语法讲义』商务印书馆出版
- 劉月華等(1983)『实用现代汉语语法』外语教学与研究出版社
- 木村英树(1983)「关于补语性词尾“着”和“了”」『语文研究』山西省社会科学研究所 1983 No. 2
- 陳平(1988)「论现代汉语时间系统的三元结构」『中国语文』中国社会科学院语言研究所 1988 No. 6
- 石毓智(1992)「论现代汉语的“体”范畴」『中国社会科学』中国社会科学编辑部 1992 No. 6
- 费春元(1992)「说“着”」『语文研究』山西省社会科学研究所 1992 No. 2
- 王 還(1993)「有关汉语对外语法对比的三个问题」『对外汉语教学论文选评』北京语言学院出版社
- 周有斌他(1993)「汉语心理动词及其句型」『语文研究』山西省社会科学研究所 1993 No. 3
- 竟成(1996)「汉语的成句过程和时间概念的表达」『语文研究』山西省社会科学研究所 1996 No. 1
- 卢福波(1996)『对外汉语教学实用语法』北京语言文化大学出版社
- 李铁根(1999)「定语位置上的“了”、“着”、“过”」『世界汉语教学』北京语言大学 1999 No. 3
- 陸俊明(1999)「“着”字补语」『中国语文』中国社会科学院语言研究所 1999 No. 5
- 呂冀平(2000)『汉语语法基础』商务印书馆出版
- 金立鑫(2004)「“着”“了”“过”时体意义的对立及其句法条件」『第七届国际汉语教学讨论会论文选』第七届国际汉语教学讨论会论文选编辑委员会
- 高顺全(2004)「进行体、持续体的否定及相关问题」『第七届国际汉语教学讨论会论文选』第七届国际汉语教学讨论会论文选编辑委员会

- 肖奚强(2004)「“正(在)”“在”“着”功能比较研究」『第七届国际汉语教学讨论会论文选』第七届国际汉语教学讨论会论文选编辑委员会
- 李晓琪(2005)『现代汉语虚词讲义』北京大学出版社
- 彭小川、李守纪等(2004)「“笑着点头”与“笑了笑,然后点了点头”」『对外汉语教学语法释疑201例』商务印书馆出版
- 张黎「汉语“着”的语法意义及其相关现象的认知类型学解释」中国語教育学会 2011 No.9

【日本語】

- 朱徳熙著、杉村博文、木村英樹訳 (1995)『文法講義』白帝社
- 劉月華他著、相原茂監訳 (1996)『現代中国語文法総覧』くろしお出版
- 興水優、島田亜実 (2009)『中国語分かる文法』大修館書店
- 興水優 (1985)『中国語の語法の話—中国語文法概論』光生館
- 呂叔湘著 (1983)『現代中国語用法辞典』現代出版
- 荒川清秀 (2003)「テンス・アスペクトと中国語の動詞など」『一步すすんだ中国語文法』大修館書店
- 郭春貴 (2001)『誤用から学ぶ中国語』白帝社
- 藤堂明保、相原茂 (1985)『新訂 中国語概論』大修館書店
- 吳麗君、西川和男 (2005)『中国語の誤用分析』関西大学出版部
- 来思平、相原茂 (1993)『日本人の中国語—誤用例54例』東方書店
- 張黎、佐藤晴彦 (1999)『中国語表現文法』東方書店
- 松岡栄志、古川裕 (2004)『現代中国語総説』三省堂
- 木村英樹 (1991)「“着”と“在”の否定」『中国語入門Q&A』大修館書店
- 豊嶋裕子(2008)「“一边A一边B”“V1着(0)V2”についての考察」『中国語教育』中国語教育学会 2008 No.6
- 荒川清秀(2011)「“着”はどんな場合に使うか」『中国語教育』中国語教育学会 2011 No.9
- 丸尾誠(2011)「“在”と“着”—事態をいかに捉えるか」中国語教育学会 2011 No.9